

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番 号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	観 点	東書（東京書籍）
取 扱 内 容 教科・各学年の 学習指導要領の 総則及び各 内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算では、4学年に「簡単な場合についての割合」が新しく位置付けられたため、3学年以降では、倍に関する内容を単元化し、三用法（割合に関する3つの計算方法）で扱うなどの特色が見られる。 ・図形では、正方形と円の組み合わせを考えたり、図形を回転させて考えたりする問題を新設するなど、全国学力・学習状況調査及び各種調査から、図形領域について、児童のつまずきが見られる問題を振り返ることができるよう構成されている。 ・測定では、伴って変わる2つの量をみだし、それらの関係に着目することで目的に応じて表や式、グラフを用いて関係を一般化し、変化や対応の特徴を見つけて日常生活に生かすような構成が図られている。 ・変化と関係では、1次関数として捉えられる2つの数量について、表、グラフ等を相互に関連付けて考察し、表現するなどのページが設けられており、中学校の学習を視野に入れた構成が特色となっている。 ・データの活用では、統計的な問題解決の方法の段階的な理解のために、問題解決のストーリーに必然性をもたせたり、5、6学年では統計的な問題解決の過程を図式化したり、身の回りの事象を統計的に解決する活動を設定している。 	
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末に学習した基本的な概念や性質の理解、技能の定着を図るため「たしかめよう」を設けるとともに、学習の定着については、「おぼえているかな」のコーナーを設けるなど、学力調査の結果分析による児童のつまずきや誤答の多い問題に対応している。 ・「つないでいこう 算数の目」を2学年以上の単元末に設定し、当該単元の学習内容と既習を数学的な見方・考え方を介して学びの統合を促すよう構成されるなどの特色が見られる。 ・自立解決の場面では、既習の内容から類推的、帰納的、演繹的な考え方をを用いて見通しを立て、複数の考えを試みるよう構成されている。 ・基礎的・基本的内容をスパイラルに学習させ、確実な知識・技能の定着が求められる内容の集中や、同一領域の内容が連続することがないように、排列が工夫されている点に特色が見られる。 ・2学年以上に、「ますりん通信」というコラムを設定し、算数の学習に関連する多方面からの話題や、児童が気付いたり、発見したりする見方・考え方を取り上げている。 	
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年以上では、授業開きのページ「学びのとびら」を設定し、主体的・対話的な問題解決の過程を可視化するとともに、「今日の深いまなび」を学年3箇所を設定し、求められる資質・能力を図ることができるよう工夫されている点に特色がある。 ・単元導入に係わる「単元プロローグ」では、対話を通して単元全体の課題を見出し、考えることが楽しめるよう工夫が図られている。また、「つないでいこう算数の目」では、対話を通して全体を振り返る活動を促すなど、対話を重視した構成に特色がある。 ・割合については、2学年から段階的、系統的に分数と関連付けたり倍を取り扱ったりして、割合の素地を培い、学力調査の問題及び結果をベースに深化を図るよう構成されている。 ・当該学年の漢字や未習の漢字については、ページごとに初出箇所にふり仮名をつけ、学習上の支障にならないよう配慮されている。 ・できるだけ実物の写真を使用し、実生活との関連を意識しやすいよう配慮されている。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との関連を考慮した教科等横断的な教材を多く取り上げるとともに、特に他教科との関連が強い単元については、学習の繋がりを明確にする工夫に特色が見られる。 ・道徳科と関連した工夫として、「算数マイノートをつくろう」「算数マイノートを学習に生かそう」では、他者の考えの長所を認めたり、他者を参考に自分の考えを修正したりする例が示されている。 ・プログラミング教育では、第5、6学年に単元の学習と関連させた「プログラミングを体験しよう」を設定し、プログラミング思考を体験できるよう工夫されている。 	

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番 号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観 点	大日本（大日本図書）	<たのしい算数> 103、203、303、403、503、603
取 扱 内 容 学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 ・ 各 学 年 の 目 標 ・ 内 容 等	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算の単元では、児童が確実に理解し、技能を身に付けることができるよう、学習内容を段階的にスモールステップで行う構成がとられている。 ・図形では、作図技能を確実に定着させるため、円のかき方や分度器の使い方などを写真で丁寧にし、動画コンテンツも活用できるようにしている。直方体・立方体の展開図については、アニメーション付きの補充問題のコンテンツを活用し、空間図形に対する感覚を豊かにするような構成が図られている。 ・測定では、2学年の「倍」の学習や3・4学年に「倍とかけ算、わり算」の単元を新設し、丁寧な構成にするなど、5学年の「割合」の学習への円滑なつながりが意識されている。 ・変化と関係では、関数関係を調べる表について学年が上がるごとに空欄を増やし、児童自ら表を作成する能力が育成されるよう工夫が図られている。 ・データの活用では、児童の身近な生活場面における問題や疑問を扱い、統計を使って問題を解決する必要感を育成するとともに、表・グラフを読み取り、分析して話し合う活動を取り入れるなど、分析したことから新しい問題や疑問が広げられる構成になっている。 ・データの活用では、批判的な思考力を育成するため、誤った読み取りについて話し合う活動を取り入れた構成になっている。 	
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、学年1冊の合本としたため、学校行事や研究発表等に応じて、単元の排列を入れ替えることができるようにするなど、1年間の学習内容を見通して計画を立てられる配慮がなされている。 ・問題を右ページに配置し、解決方法をめくったページに配置する構成をとり、しっかりと思考し表現する活動が行えるような構成となっている。 ・導入の段階で、児童自身が問題や疑問を見だし、主体的に学習に取り組めるような題材を取り入れるとともに、「ふくろう先生のなるほど算数教室」を新設し、興味・感心を高めたり、算数が社会で生かされたりしていることを実感できる工夫が図られている。 ・オリンピック・パラリンピックに関連した題材を全学年にわたって豊富に掲載し、興味・関心を高めることができる構成となっている。 	
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「算数まなびナビ」では、問題解決型の学習の流れを示し、友人との対話を通して学びを深める展開としているとともに、ペア・グループ学習を含めた対話的な学びの方法を例示するなどの工夫が見られる。 ・小数や分数の乗法、除法では、演算決定の方法として、「数直線図で考える」「整数の場合におきかえて考える」の2つを一貫して掲載するよう構成されている。 ・「おうちで算数」を新設し、学習したことを家庭や地域での生活に生かす機会を分かりやすく示すとともに、指導者・保護者向けのサポート情報をウェブサイトに掲載するなど、学校と家庭を結ぶ手立てが図られている。 ・身の回りから算数を探すなどの活動を掲載するなど、家庭や地域で算数を活用する態度を育成するよう構成されている。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフ、折れ線グラフなどの指導時期を早めに設定し、理科や社会科などの学習で学んだことを活かせるようにするなど、他教科に関連した活動・題材や統計資料が適宜扱われている。また、関連していることをマークで示すなど、わかりやすい配慮がなされている。 ・算数を生かして仕事をしている人のインタビューを掲載し、学習する目的や意図が意識できるよう、デジタルコンテンツにもその動画を用意するなど、キャリア教育の充実を図るための工夫がされている。 ・特別支援教育の視点から、全面的なユニバーサルデザイン教科書体の使用、カラーユニバーサルデザインを踏まえた配色を採用するなどの工夫が見られる。 ・プログラミングに触れる特設ページを全学年に設けるとともに、算数の内容と結びついたものを取り上げ、プログラミング思考の育成が図られるよう構成されている。 	

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観点	発行者略称	教科書番号
	学図(学校図書)	<みんなと学ぶ 小学校 算数> 104・105、204・205、304・305、404・405、504・505、604・605
取扱内容 等 学習指導要領の総則及び各 教科・各学年の目標・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2学年の数と計算領域では、数量を表す際に、ブロックなどの具体物を積極的に用いて量感覚が具体的にイメージできるように構成されている。 ・3・4学年の図形領域では、実際に図を作り観察する活動を通して、その性質を分類する展開になっている。 ・測定、変化と関係では、3・5学年で、条件変更した場合の考察など、さらに学習を進めたいくなるように吹き出しを有効に活用している。 ・データの活用では、統計領域の学習を、「整理」と「活用」に分けることで、必要な知識を身に付けそれをどのように活用していけばよいかを明確にしている。 ・算数の学習に必要な用語や定義と、学習を通して児童自らが発見した決まりを、区別して表示している。 ・2年生以上の下巻と6年生では、日常生活と関連する数やグラフについて取り上げ、それらを数理的に処理する場面として「?発見」を設けている。また、「教えたい、まとめたい」及び単元の冒頭で、日常生活からの問題の発見やそれらを課題として取り組むことができる場面として、「?発見」を設けている。 	
内容の構成・ 等 排列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の側注では、課題を解決するために既習内容を思い出したり、新しい考え方を扱う場面でモンスターを設けたりして、知識の積み重ねが確実にできるよう工夫されている。 ・全体の課題を精選することで、学習指導要領に示された標準時間時数に対して、10～20%ほど少ない時間数で本文内容を扱うことができるよう構成されている。 ・単元末に掲載した「生活にいかす・深めよう」では、その単元や複数の単元で学習した内容を活用して日常の課題を解決する問題が設定されており、総合的に思考力・判断力・表現力を育てる構成となっている。 ・「本文を深めよう」において、教科書のサイズ幅を広げ、解答に記述を求める場を多く設けている。また、表現力の育成と、低学年から課題を図や絵、式で表して考えることを重視した表現力が継続的に育成されるよう、工夫が図られている。 ・「深めよう」やコラムなどでは、学んだことを生活や遊びの場面に活用することで、算数のよさを実感し、意欲的に学習できるよう工夫が図られている。 	
使用上の 等 配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との対話が想定される場面では、2人または4人で話し合っているイラストを示し、場面がイメージしやすいような工夫を行うとともに、多様な考え方や書き方を認め、他者の考え方を理解するような配慮がなされている。 ・重要事項は、教師が指導することに博士マークが付いている。また、児童が活動を通して発見した考え方やきまりとまとめが分けられており、目立つような工夫が図られている。 ・6学年別冊の「算数で見つけた考え方」では、6年間の学習を、考え方をまとめることによって、違う領域でも同じ考え方が生かせることに気付くなど、領域を超えて理解を深められるよう工夫されている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の統計資料や国語科の表現活動、保健体育科の安全教室、理科の教材考察などについて、他教科との関連を図ることで、算数の有用性を理解できるよう構成されている。 ・低学年では、1日の流れを調べる活動を通して、自分自身の生活について振り返り、見直そうとする態度が育成されるよう工夫が図られている。 ・6学年では、中学校とのギャップを少なくするため、教科書を1冊にし、1学年1冊という形態に慣れるよう配慮されている。 ・支援が必要な児童やつまずきをなくす手立てとして、全ページにおいて文を読みやすい位置で改行し、読み取る段階でのつまずきを解消するよう配慮されている。 ・各学年にプログラミングに関するページを設け、プログラミング思考が身に付くように工夫されている。また、タブレットを使用して撮影した写真を拡大や縮小する活動を通して、コンピュータを使用する利便性に気付く工夫が図られている。 	

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
取 扱 内 容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	教出（教育出版）	<小学算数> 106、206・207、306・307、406・407、506、606
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元導入では、身近な題材から問題を発見し、目的意識を持って活動に取り組めるようになっている。また、単元末では、学習したことを日常場面に活用する問題に取り組み、何ができるようになったのかを実感できる構成となっている。 ・ 基礎的・基本的な内容に重点を置き、選択的に練習問題に取り組めるようになっている。 ・ 単元の間に「ふくしゅう」のページをはさみ、既習事項を振り返りながら学習を進めていけるよう構成されている点に特徴がある。 ・ 家庭学習でも用いることができる「ステップアップ算数」のページが設定されている。 ・ 1年生の「時計」の単元を年度初めの5月に位置付けることで、学校生活の中で時計を活用し易くする構成となっている。 	
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人のキャラクターを配置して吹き出しの言葉を使い、「はてな」→「なるほど」→「だったらこれは…」という問いの連続を生み出し、学びを深める工夫が特徴的である。 ・ 2年生以上では「4コマ漫画」を設け、学んだことのよさや考え方を振り返り、単元や領域を貫く数学的な見方・考え方を意識付け、学びをつなげさせる配慮がなされている。 ・ 「よくあるまちがい」のコーナーを設け、典型的な誤答例を掲載することで、つまずきを解決するためのポイントを意識させるよう配慮されている。 ・ 「学びのマップ」では、わからないことが出てきた時に、既習事項を自主的に確認できるよう配慮されている。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを総合的に活用する問題や、問題解決能力を高める学期末問題に特徴がある。 ・ 5年生の正多角形と円では、独自のプログラミングツールを使い学習できるようになっており、簡単な操作で、プログラミングについて学ぶことができるよう工夫されている。 ・ 1年生の「いくつかな」では国語、3年生の「時くと時間」では社会、4年生の折れ線グラフでは理科、というように関連した場面を扱うなど、他教科とのつながりを考えた教材が豊富に設定されている点に特徴がある。 ・ 環境、防災や安全、オリンピックやパラリンピックなど、現代的な諸課題に関する教材を扱うことで、社会の変化に対応する力を育てるよう構成されている。 	

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
取 扱 内 容 学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 ・ 各 学 年 の 目 標 ・ 内 容 等	啓林館（啓林館）	<わくわく算数> 108、208・209、308・309、408・409、508、608
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等		<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習は、「学習の入り口→新しい学習→練習→学習の出口」という流れをとり、児童の思考の流れに沿った工夫が見られる。 ・既習事項を復習できるよう、練習問題が豊富に配置されている。 ・巻末の問題「もっと練習」が設定されており、習熟度別学習に対応できるよう配慮された内容となっている。 ・2～6年生の巻末には、「算数資料集」が設けられ、説明の仕方や図の書き方、学習した中で特におさえておきたい情報などが、分かりやすくまとめられている。 ・「わくわく算数学習」コーナーを設け、子どもたちがコミュニケーションをとりながら、主体的に学習が進められるよう工夫が図られている。
使 用 上 の 配 慮 等		<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組めるようにするために、新しい学習を始める際、既習事項や日常の問題から学びをつなげていけるよう、「単元とびら」が設定されている。また、それに関連する問題を巻末に設けて、学びのサポートとしてレディネスチェックができるよう工夫されている。 ・各学年の第1時に、学び方のフローとノート例を示し、学習の仕方の参考を示すなどの配慮がなされている。 ・QRコードを読み取り、スマートフォンやタブレットで学習の参考になるコンテンツを閲覧することができるよう工夫されている。また、各単元の準備・復習として活用できるよう、教科書の内容を動画で見られる工夫が図られている。
そ の 他		<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングについては、5・6年生の「算数ラボ」を中心に取り扱い、巻末付録ページやオリジナルのプログラムコンテンツ、その他のプログラミングソフトなどを選んで使えるよう工夫が図られている。 ・6年生では、キャリア教育の一環として、社会で活躍する人のインタビューを掲載し、算数がそれぞれの職業にどのように活かしているかを伝える場を設けるなど、学ぶことの目的を考える工夫が図られている。

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	日文（日本文教出版）	<小学算数> 110・111、210・211、310・311、410・411、510・511、610
取 扱 内 容 学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 学 年 の 目 標 ・ 内 容 等	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の数と計算の領域では、具体的なイラストを見て数える活動等を通して、加法や減法の意味を理解し、計算の仕方を考える力を育てる構成となっている。 ・数と計算では、多様な考えに気付けるよう工夫が図られているとともに、6年生では、分数のかけ算やわり算で、面積図を用いたり、式の操作をしたりすることで、分数の乗法や除法の計算の仕方を考えられるよう構成されている。 ・図形では、紙を切って図形を作ったり、仲間分けをしたりしながら、図形の概念を理解し、図形の特徴を捉えられるよう配慮されている。 ・図形では、図形の特徴をふまえた作図方法が理解しやすいように構成されており、5年生の合同な図形では、見開き1ページに3つの作図方法が手順に沿って示されるなどの工夫が図られている。 ・測定では、長さや重さを比べたり測ったりする活動を通して、数量の概念を理解するとともに、量の単位を用いて的確に表現する力を身に付けられるよう構成されている。 ・変化と関係では、表に整理して数量の変化の規則性を見付けたり、数直線を用いて数量の関係を理解したりするよう構成されている。 ・4年生では、言葉の式から○や□を用いた式へと丁寧に段階を踏むことで、児童が理解しやすい構成となっている。 ・データの活用では、日常の中にありそうな題材を選択し、児童がデータ収集や分類・整理を楽しめるよう配慮されている。 ・5年生では統計資料を読み取る問題を巻末にも設定し、児童が問題に慣れ親しめるよう配列されている。 	
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい単元に入る前に、その単元に関わる既習事項を押さえるための問題演習ページを設け、スムーズに次の学習を進めることができるように構成されている。 ・巻末の「算数マイトライ」では、知識及び技能の定着のために、補充問題を豊富に設定するとともに、習熟度に合わせて意欲的に学習に取り組めるよう、「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の応用的・発展的な問題を掲載している。 ・単元末の演習問題では、知識及び技能をしっかりと定着させるために、児童がつまずきやすい内容を重点的に取り上げ、まちがいやすい問題を掲載することで、児童が問題のポイントに注目しやすいよう工夫が図られている。 ・各学年とも10～18時間程度の予備時間を設け、実態に合わせて弾力的に学習を進められるよう、構成されている。 	
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に「自分で みんなで」というページが設定されており、児童同士が数学的に表現し伝え合う活動を取り上げ、見通し・見積もりや児童の考えを学習展開に沿って提示し、主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう配慮されている。 ・巻末の付録を切り取って使うことで、実際に手を動かしながら、数学的活動を通して問題に取り組むことができるよう配慮されている。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツを活用し、プログラミングを体験できるようになっており、論理的思考力を身に付ける工夫が図られている。 ・4年生下の巻末にある活用のページでは、お誕生日カードの作り方について扱い、図画工作と関連させるなど、他教科の学習とつなげて、算数の学習内容を活かす力や態度を育成する工夫が随所で見られる。 ・児童がつまずきやすい内容については、全国学力・学習状況調査やその他各地域での学力調査の結果をもとに掲載している。 ・問題文や重要事項を枠で囲んだり網掛けしたりすることで、児童が注目しやすいように工夫されている。また、全ての文章を読みやすい位置で改行し、学習しやすい配慮がなされている。 	